

授業科目 救急蘇生法演習

【担当教員名】 大滝 弘		対象学年	3	対象学科	情報		
		開講時期	前期	必修選択	必修		
		単位数	1	時間数	30		
【ディプロマポリシーとの関連性】							
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現			
◎	○	○	○	○			
【概要・一般目標：GI0】 一般市民が行うことができる応急救護の概念を理解し、CPR（心肺蘇生法）とAED（自動体外式除細動器）を組み合わせた応急救護法を実施できる。							
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 各疾患の救急対応法を理解できる。 2. 応急救護の概念や蘇生の連鎖、感染の予防について理解できる。 3. 気道、呼吸、循環の初期の評価について理解し、実施できる。 4. 気道の確保について理解し、実施できる。 5. 効果的な CPR を実施できる。 6. 病気やけがに応じた対処法を理解し、実施できる。 7. AED とその使用法を理解し、CPR と組み合わせて実施できる。 8. 救急救護法が必要な現場に遭遇した場合の対処法を説明できる。							
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員		
1	オリエンテーション						
2	スポーツ現場での救急対応			1	講義		
3	精神科救急とその対応			1	講義		
4	内科的救急対応（1）			1	講義		
5	内科的救急対応（2）			1	講義		
6	応急救護法とは			2	演習		
7	蘇生の連鎖と感染の予防			2	演習		
8	気道、呼吸、循環の初期の評価			3	演習		
9	気道の確保			4	演習		
10	CPR			5	演習		
11	病気やけがに応じた対処法			6	演習		
12	AED を用いた救急救護（1）			7	演習		
13	AED を用いた救急救護（2）			7	演習		
14	知識の確認			8	演習		
15	まとめ				演習		
【使用図書】		<書名>		<著者名> <発行所> <発行年・価格 他>			
教科書 (必ず購入する書籍)							
参考書		救急蘇生法の指針 市民用・解説編 改訂3版 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会（監修） へるす出版 2006・1,260円					
その他の資料							
【評価方法】		【履修上の留意点】					
出席状況、授業態度、筆記試験で総合的に評価する。		30名程度のグループ単位で行う。					